

65歳～69歳男性の53%は就業しています

高齢者というと、職業から身を引いて若い世代の働きに依存し、趣味や旅行など自分らしく悠々自適に暮らしているという見方が一般的です。少子高齢化が進むなかで、労働力不足や若年世代の負担増大の問題が論じられています。

会社員や公務員の退職年齢は1970年代に55歳から60歳に延長されました。近年は年金財政の破綻から年金支給開始が65歳になって、企業における60歳以後の雇用もすすみましたが、不況でブレーキがかかっています。

諏訪市の高齢者の就業状況をみると、男性では60歳代前半で73%、後半では53%の方々が職業についています。70歳代でも前半の40%、後半の29%と高い就業率です。製造業11%には諏訪の特色が見られますが、建設業、定年後農業者が多い農業分野、自営業者の多い卸・小売り業などが主たる働き口です。就業せずに地区の役職や福祉・環境・文化などの社会活動で地域を支えている方々と共に、高齢者は地域の産業活動の重要な担い手です。

